

[38_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
38(1)

<https://doi.org/10.15017/10684>

出版情報 : 図書館情報. 38 (1), pp.1-18, 2002-07-31. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 38, No. 1 (2002)

——【目 次】——

副館長就任にあつて……………	2
九大が所蔵する記録史料の状態と活用（1）「竹田文庫」……………	3
第43回開学記念貴重文物展観と公開講演会……………	5
本年度の研究開発室活動……………	6
平成13年度特別図書購入一覧……………	8
平成13年度各種統計……………	9
平成14年度商議委員名簿……………	11
人事異動……………	12
図書館日誌……………	13
自著紹介……………	15
本学関係者寄贈図書……………	17



源氏物語歌絵（九州大学附属図書館支子文庫蔵本）



副館長に就任して

附属図書館副館長 藤田昌也

この4月1日より、有川館長の推薦を受け、副館長を拝命致しました。

副館長制度は、今年度から始まった新制度です。副学長が図書館館長を兼任することになり、法人化・移転をむかえて副学長及び図書館長としての仕事を一層充実できるようにという配慮から始まったものではないかと思います。館長でなければならない、あるいは有川教授でなければならない業務というのがありますので、それ以外については、補助もしくは代行してゆくというのが私の仕事ということになります。私にとっては、図書館は利用するところであったのですが、180度転換して、資料利用のサービスを提供する逆の立場になりました。図書館の利用者の一人として、機会があれば要望し、また寄せられた要望に応えるように実現を図るのが私の役割と考えております。

平成16年4月から独立法人の制度が始まります。大学全体の問題であって図書館だけではありませんが、何がどうなるのか、法人化の準備として何をすべきか、がもう一つ分らず隔靴搔痒の感があります。すでに図書館では独立法人への移行の前提として資産評価の問題が生じていますが、これについては解決の方向が少し見えたようです。まだ言い出されていないのですが、減価償却の準備はしなくていいのかといった問題は、私の専門に近いこともあって、みんなで渡れば怖くない式で回避できるのか、大変気がかりになっています。また従来の予算制度とは全く異なった交付金制度が始まりますから、図書館予算にどのような影響をもたらされるのか、という不安もあります。柱となるのは、結局は中期目標・中期計画ではないかと思われまゝ。幸いなことに、有川館長が立案され、商議委員会において検討されてきた計画があります。これがどれだけ優先されるのかが重要な鍵になってくるのではないのでしょうか。

九州大学は、さらに新キャンパスへの移転があります。先に理系図書館が移転しますが、その後、文系諸部局の図書館も統合されて、中央図書館が移転することになります。現在の部局図書館が持つ地理的な便利さはどうしようもありませんが、統合のメリットを生かし、種々工夫して便利さを別の形で提供しながら、さらに新キャンパスのシンボリックな場所にもなればという強い願いを持っています。館長からは私に課題として与えられていますので、みなさまのご協力を得て、是非すばらしい教育研究の場の基本的な案ができればと思っています。

ところで4月1日の着任式に、中央図書館の職員を前に挨拶の機会を得ました。私ごとですが、その中には、私の学生時代からの職員が数人おられます。懐かしい顔ぶれもありました。必ずしもいい学生ではなかっただけでなく、紛争の時は迷惑をかけたこともあります。忸怩たるおもいがかすめました。

是非皆様のご協力を得て、課題を解決してゆきたいと思っています。よろしくお願い致します。

(ふじたまさや 経済学研究院)

九大が所蔵する記録史料の状態と活用（1）

「竹田文庫」

宮崎 克則



附属図書館5Fの貴重図書室に、写真の木箱がある。何の表示もなく、何が入っているかも不明であった。ふたを開くと、なかには多くの史料が無造作につめ込まれており、いくつか取り出してみると、「竹田春庵」などを宛名とする書状があり、「竹田文庫」であることがわかった。

「竹田文庫」は、一部が福岡県立図書館にあり、一部が九大にあることは聞いていたが、九大のどこに保管されているのか知らなかったのが、新たな発見であった。そこで、カードが作成されているかどうか調べてみると、あったのはたった一枚のカードであり、「竹田文庫」が附属図書館にあることを記すのみであった。

上の木箱には、約1460点の記録史料が未整理のままつめ込まれていた。この他に、同じ「竹田文庫」でありながら、別置されていた木箱があった。それは、「益軒書簡」と題された卷子（109巻）を納めている。



「益軒」は貝原益軒であり、福岡藩を代表する儒学者である。益軒の著作は、『養生訓』『大和本草』

などの自然科学、『黒田家譜』『筑前国続風土記』などの歴史・地理、『益軒十訓』の教訓書など多岐にわたっている。

竹田定直（春庵）は、貝原益軒の高弟であったから、益軒からの手紙が「竹田文庫」に残ってるのは当然のことでもある。しかし、問題なのは、いつの時期か不明ながら、「竹田文庫」のなかから益軒の手紙だけを抜き出し、内容によって分類し、卷子に装丁したことである。

一見すると、きれいに装丁されており、適切に保存されているように見えるが、抜き出すことによって、もともと史料がどのように並んでいたのかわらなくなってしまう。しかも、いつ・誰が・どのような目的で「益軒書簡」の卷子を作成したのかも不明である。

このような補修を加えた場合には、補修の記録を残していくべきである。



我々は、平成12年度から「竹田文庫」の整理を開始し、現在も進行中である。これまでに三分の二ほどを整理した。史料1点ごとに中性紙の封筒に入れ、表題・年代・作成者や内容などを抽出して表記している。卷子になっている「益軒書簡」は封筒に入れず、別にカードを作成している。これら基礎作業の終了後、必要データを入力し、ネット上でも検索できるようにする予定である。

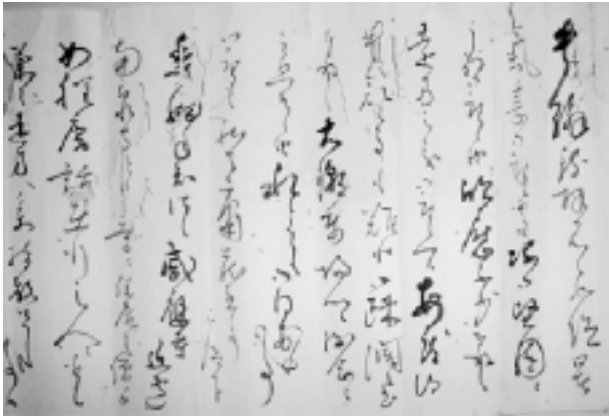
竹田家はもともと京都の公家であり、江戸時代に福岡藩主黒田家に仕えた。なかでも竹田定直（春庵、助太夫）・竹田定良は、貝原益軒とともに『黒田続家譜』を編纂したり、藩校修猷館を創設するなど、福岡藩を代表する学者として著名である。「竹田文庫」には、荻生徂来や雨森芳洲などの著名人と交わした手紙や朝鮮通信使関係記録なども多数含まれている。

いくつかを紹介しよう。

史料番号32 雨森芳洲書状

雨森芳洲（1668～1755）は、江戸時代中期の儒学

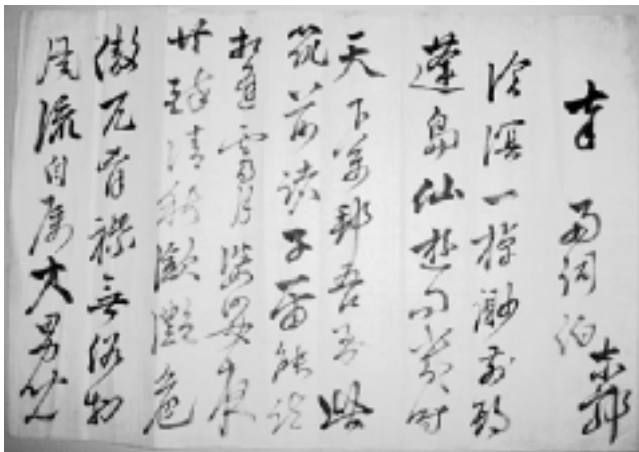
者であり、通称は東五郎。書状には差出人として「雨



森東五郎」の名があり、宛名は竹田助太夫（定直）となっている。芳洲は17、18歳のとき幕府の儒官木下順庵に学び、元禄2（1689）年、順庵の推挙によって対馬藩儒となる。彼は語学に優れ、中国語・朝鮮語に通じ、対馬藩の文教と朝鮮外交に力をふるった。

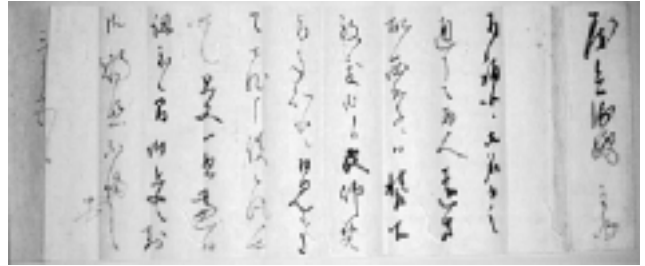
この史料は、芳洲らしく唐話（中国語）に詳しい「庸蔵子」なる人物に親炙するように勧めたものである。

史料番号112号 李東郭七言律詩箋



李東郭は、正徳元（1711）年、徳川家宣が將軍となったことを祝賀するために来朝した朝鮮通信使の製述官である。使節のなかでも文事に長けたことで知られ、日本の儒者・詩人との唱和詩はもっとも多く残り、また新井白石の漢詩文集『白石詩草』（正徳2年刊）に序文を寄せるなど、わが国の知識人たちに大きな刺激を与えた。この序文に「兩詞伯に奉る（2人の詩文の大家に捧げる）」とあることから、竹田定直とその息・定澄に呈したものであろうか。なお「竹田文庫」には、このほかにも洪鏡湖、南泛叟などとの詩箋が多数残されている。

史料番号317号 龜井南冥書状



書状の右端の「茂兵衛」は竹田定良のことであり、その下の「主水」は差出人 龜井南冥である。

龜井南冥は、早良郡姪浜村（現福岡市西区姪浜）生まれ。儒学および漢詩を肥前の僧大潮、医学を長門・長府の永富独嘯庵に学ぶ。帰郷後、父（聴因）とともに自宅内で儒学講義所（蜚英館）を經營し、宝暦13（1763）年、朝鮮通信使の応接等の功績により、「儒医兼帯」として福岡藩に仕える。天明4（1784）年に福岡藩の藩校設立に尽力し、文化8（1811）年に死去した。

彼が設立に尽力した福岡藩の藩校は、東學問所（修猷館）と西學問所（甘棠館）である。同時に2校の藩校ができることは全国的にも珍しく、どちらの學問所に入學するかは個々人の意志によった。

上の書状は、東學門所より西學問所への転校生についてである。

拝誦仕候、御名付之
通り之兩人、遠方
故、西學ニ而稽古
致度由ニ而、被仰聞候
旨承知仕候、相見被申候
ハ、可然申談候様ニ可
仕候、且又一書兼而
認置候間、御上所之別
御賜愈不備頓首

三月五日

なかには、素行の悪い学生に対する処置について記したもの（史料番号318）などもある。

最後になったが、「竹田文庫」の整理に参加している人々の名前をあげておく。ここでの史料解説も彼らの調査にもとづくものである。

吉田洋一（久留米大学大学院）
大庭卓也（日本學術振興會特別研究員）
伊藤彰子（日本學術振興會特別研究員）
松尾晋一（九州大学大学院）
武田弘毅（九州大学大学院）
穴井綾香（九州大学大学院）

（みやざきかつのり 総合研究博物館助教授）

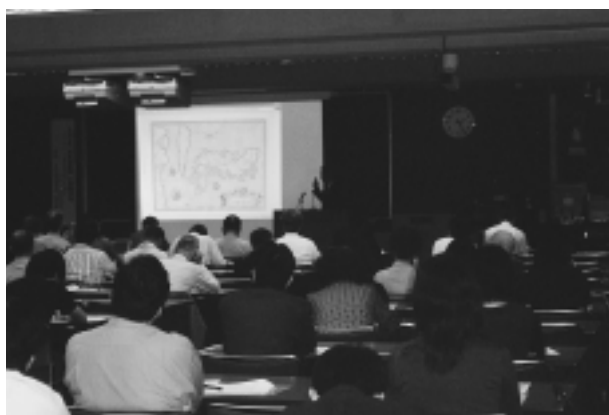
「ヨーロッパ製古地図から見たアジア・日本・九州」展を開催 ー第43回開学記念貴重文物展観と公開講演会

中央図書館では、5月11日の本学開学記念日における大学公開事業の一環として、情報基盤センターとの共催による貴重文物展観（5月9日～5月15日）と公開講演会（5月10日）を開催しました。

今回は、附属図書館が所蔵するヨーロッパ製古地図から16～18世紀のアジア、日本地図26点を中心に、学内で所蔵する貴重な中国、朝鮮、日本、長崎の古図や関連資料を多数出展していただき、日本とその周辺の形状の変遷や当時の世界観を一望できるものとなりました。また、特設会場に通ずる廊下には、幕末期の大型日本実測地図や複製古地図、画像ファイルから出力した「世界人物図巻」などを配し、情報基盤センター技術陣による超高精細画像のスクリーン投影、大型ディスプレイの配置により会場の雰囲気作りを行い、会期中475名の参観者に好評を得ていました。

本展観を指導していただいた小野菊雄名誉教授による公開講演会は、「ヨーロッパ製古地図から見た日本とその周辺」と題して、画像化した展示地図や豊富な資料を投影しながら、マルコ・ポーロの時代から日本がほぼ現在の形状で世界に知られるようになったシーボルト図までの変遷を興味深く話され、時間をオーバーして100名余の聴講者に古地図への興味をかきたてるものとなりました。なお、講演のライブは学内LANを通して各キャンパスのディスプレイ・スポットに配信されました。

また、当日は、近在の図書館職員OB諸氏にも案内し、1922年創設から80周年を迎えた附属図書館のこれまでの発展に想いをいたす新旧職員の交歓会も盛会裡にとりおこなわれました。



アンケートから

ヨーロッパの古地図の余白に書かれたイラストも面白かった。世界そして天体、地球に思いをはせた当時の人達のことを想像し楽しい一時をすごすことができた。（福岡市）

貴重な資料、史料を鑑賞することができ大変素晴らしいかった。地元の地名を発見できたので嬉しかった。（文・学生）

これだけの古地図は今迄に見たことがありませんでした。古地図から作製にかかわった人達のエネルギー、勢いを感じ当時大事であったろうことが伺え

ーご協力ありがとうございました。

ます。（福岡県）

「地図」というテーマで展示を行わない限りこれらの資料は一堂に会することはなかったろう。（佐賀県）

500年も昔の西洋人は日本が小さな島々の集まりと考えていたのが驚きだった。次第に地図が正確になっていくさまがわかりやすかった。（理・学生）

資料の豊富さに驚きました。（熊本県）

パソコンを用いて展示をよりいろいろな目から見られ、良いアイデアだった。（理・学生）

本年度の研究開発室活動

本年度の研究開発事項及び室員は次のとおりです。

① 図書館の将来計画に関する調査研究

室員：藤田昌也

附属図書館副館長、経済学研究院教授

九州大学附属図書館としての将来計画、特に、元岡地区への移転統合、国立大学の独立行政法人化における図書館のあり方等、図書館の将来計画について調査研究する。

② 九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発

室員：松尾文碩

情報基盤センター長、システム情報科学研究院教授

室員：喜田拓也

研究開発室講師

室員：南俊朗

研究開発室特別研究員、九州情報大学教授

電子図書館化推進のための基礎及び実用化に関する研究を行う。特に、図書目録カードのイメージデータによる書誌情報検索支援システムの総合的支援システムの実用化に重点をおいた研究開発を進める。

その他、参考調査業務支援システム等の電子的情報収集・検索システム、ICタグを利用した図書館機能の電子化・自動化、図書館サービスのパーソナル化、書誌情報の遡及入力支援システムなどに関して、要素技術からその適用システムに至る研究を推進する。

③ 九州大学附属図書館所蔵の貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発

室員：今西裕一郎

人文科学研究院教授

九州大学附属図書館で所蔵する貴重資料の画像及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式、検索法等に関する研究開発を行う。

④ 九州大学附属図書館所蔵の古書・文書データベース構築に関する調査研究

室員：吉田昌彦

比較社会文化研究院教授

室員：宮崎克則

総合研究博物館助教授

古書・文書整理検討委員会から出された報告書（平成9年2月）に盛り込まれた検討の後を受け、九州大学附属図書館及び各部局毎に分散所蔵している古文書類の一元化された目録データベースを作成、電子化するための方策等について具体化するための調査研究を行う。

5 統合移転後の新図書館建設に関する調査研究

室 員：山 野 善 郎

人間環境学研究院助教授

九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画に向けて、新図書館の設計等、理想的な大学図書館を建設するための調査研究を行う。

6 韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究

室 員：松 原 孝 俊

言語文化研究院教授

九州大学附属図書館は、平成11年度の韓国ソウル大学校中央図書館に続き、平成14年度に慶北大学校中央図書館との間に図書館間交流協定を締結した。そこで、これらに関する具体的な計画立案と実施に関する調査研究を行う。

7 医学分館所蔵貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究

室 員：Wolfgang Michel

言語文化研究院教授

工学部旧保存書庫収蔵の医学部蔵書中には、先達の収集になる多数の16-19世紀の貴重書が含まれている。平成11年度は総長裁量経費により再調査、整理作業を行い、平成12年度から平成13年度まで具体的に調査研究を行っている。引き続き、これの遡及目録、データベース化による公開を促進し、併せてコレクションとしての医史学的及び書誌学的な資料価値等に関する調査研究を行う。

8 IC タグによる図書館運用に関する調査研究

室 員：藤 崎 清 孝

システム情報科学研究院助教授

九州大学附属図書館における図書貸出／返却窓口の作業の効率化、図書検索時間の短縮、無人ゲートによる入出者管理など、図書館サービスの拡大を目指した IT 化推進のために、IC タグを用いた図書館運用に関して調査研究を行う。

9 レファレンス事例検索システムに関する調査研究

室 員：竹 田 正 幸

システム情報科学研究院助教授

九州大学附属図書館におけるレファレンス業務支援のために、過去の事例を蓄積し、今後のサービス提供に役だてるためのレファレンス事例検索システムの構築に関する情報収集と調査研究を行う。とくに、九州地区大学図書館協議会の各図書館との連携も考慮し、今後の図書館の電子化に対応できるシステムの実現法について調査研究を行う。

10 ホームページ等、附属図書館広報活動における英文化に関する調査研究

室 員：Cobbing Andrew

留学生センター教授

ホームページをはじめ附属図書館が行う各種の広報活動について、国際化に対応できる英文化を図り、より国際的な視点から調査研究を行う。

平成13年度 特別図書購入一覧

部 局	資 料 名	出版形態	出 版 社 等
法 学 部	行政学・政策評価分析資料コレクション 1. 評価（理論、研究、実践の国際ジャーナル）Evaluation : the International Journal of Theory, Research and practice. Vol.1－5.1995－1999. 2. 政策評価 Policy Evaluation : Linking Theory to Practice. 596p, 1995	バックナンバー 図書	Sage Publications in Association with the Tavistock Institute E. Elgar
法 学 部	The French Revolution. A Subject Collection selected from The Eighteenth (「18世紀英語・英語圏完本集成」精選コレクション:18世紀イギリスのフランス革命関係資料集)	マイクロフィルム	Gale Group
法 学 部	中世英国王室書簡集 State Papers Medieval and other Records. Pt.1 (vol.1－32) ～Pt.2 (vol.33－64) 26リール	マイクロフィルム	Gale Group
法 学 部	Federal probation. Vol.41－64 (1977－2000)	バックナンバー	Administrative Office of the US Courts
法 学 部	Criminology. Vol.36－38 (1998－2000)	バックナンバー	Columbus
法 学 部	Zeitschrift fur Wirtschaftsrecht(ZIP) (formerly: Zeitschrift fur Wirtschaftrecht und Insolvenzpraxis. Vol.1－3.1980－82) Vol.1－19 (1980－1998)	バックナンバー	Verlag Kommunikationsforum Recht Wirtschaft Steu
経済学部	Legislative history of the Gramm－Leach－Bliley Act (グラム・リーチ・ブライリー法制定資料集) (復刻版) 全23巻	図書	W.S.Hein
経済学部	Handbuch der Deutschen Aktiengesellschaften, 1900－1905 (ドイツ株式会社年鑑)(復刻版) Vol.5－10	図書	Schmidt Periodicals
経済学部	日経金融機関別借入金ファイル 上場会社＋店頭会社	CD－ROM	日経 QUICK 情報
図 書 館	International Bibliographie des Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens. Bd.36 (2000)	CD－ROM	Felix Dietrich Verlag

平成13年度九州大学付属図書館入館者統計

部 局	中央図書館	%	医学分館	%	六本松分館	%	合 計	%
文学部	22,467	5.56	181	0.11	16,041	6.44	38,689	4.73
教育学部	6,454	1.60	169	0.10	3,975	1.60	10,598	1.29
人間環境学研	7,259	1.80	242	0.15	371	0.15	7,872	0.96
法学部	48,443	11.98	806	0.49	27,104	10.88	76,353	9.33
経済学部	26,423	6.54	504	0.30	25,805	10.36	52,732	6.44
理学部	62,768	15.53	2,039	1.23	35,048	14.07	99,855	12.20
数理学研	9,357	2.31	84	0.05	318	0.13	9,759	1.19
工学部	75,605	18.70	832	0.50	76,090	30.55	152,527	18.63
システム情報	4,265	1.06	49	0.03	76	0.03	4,390	0.54
農学部	73,349	18.14	1,483	0.90	25,386	10.19	100,218	12.24
医学部	5,038	1.25	85,293	51.59	6,529	2.62	96,860	11.83
医学部附属病院	90	0.02	8,892	5.38	6	0.00	8,988	1.10
歯・歯学部病院	1,043	0.26	17,670	10.69	3,929	1.58	22,642	2.77
医療短大	1,016	0.25	16,822	10.18	112	0.04	17,950	2.19
薬学部	803	0.20	16,610	10.05	4,882	1.96	22,295	2.72
生医研	2	0.00	700	0.42	0	0.00	702	0.09
比較社会文化研	5,459	1.35	138	0.08	17,021	6.83	22,618	2.76
言語文化研	33	0.01	45	0.03	385	0.15	463	0.06
大学教育研究センター	74	0.02	5	0.00	248	0.10	327	0.04
情報基盤センター	133	0.03	0	0.00	1,153	0.46	1,286	0.16
総合理工学研	1,898	0.47	17	0.01	55	0.02	1,970	0.24
応研	56	0.01	8	0.00	0	0.00	64	0.01
機能研	26	0.01	13	0.01	0	0.00	39	0.00
健康科学センター	13	0.00	62	0.04	19	0.01	94	0.01
石炭研究資料センター	6	0.00	0	0.00	3	0.00	9	0.00
図書館(注)	1,635	0.40	3,179	1.92	61	0.02	4,875	0.60
事務局	145	0.04	1	0.00	3	0.00	149	0.02
学務部	4,894	1.21	19	0.01	89	0.04	5,002	0.61
21世紀プログラム	0	0.00	0	0.00	611	0.25	611	0.07
放送大学	40	0.01	33	0.02	16	0.01	89	0.01
総合研究博物館	125	0.03	0	0.00	3	0.00	128	0.02
学外(卒業生)	25,456	6.30	6,496	3.93	2,476	0.99	34,428	4.21
学外(名誉教授・元教官)	544	0.13	325	0.20	159	0.06	1,028	0.13
学外(他大学)	2,692	0.67	820	0.50	540	0.22	4,052	0.49
学外(一般市民)	16,630	4.11	1,777	1.07	553	0.22	18,960	2.32
合 計	404,241	100.00	165,314	100.00	249,067	100.00	818,622	100.00

休日における図書館利用状況 (平成13年度)

開館日	中央図書館 土・日・祝日		医学分館 土・日・祝日		筑紫分館 土曜日		六本松分館 土・日・祝日	
	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数
4月	2,560	7	1,338	10	44	4	1,706	10
5月	3,449	9	1,811	10	161	3	2,052	10
6月	5,070	9	1,739	9	80	5	2,320	9
7月	6,489	10	1,664	10	91	4	3,323	10
8月	0	0	603	4	49	4	0	0
9月	6,302	11	3,366	11	31	4	5,145	10
10月	3,397	9	1,743	9	71	4	1,238	9
11月	3,540	9	1,451	8	69	3	1,385	8
12月	3,387	8	1,393	9	31	5	1,435	8
1月	4,183	9	1,373	7	38	4	1,447	5
2月	7,845	9	2,438	9	88	4	5,406	9
3月	4,285	11	1,593	11	104	5	846	7
合計	50,507	101	20,512	107	857	49	26,303	95
1日平均	500		192		17		277	

平成13年度 図書館利用統計

	中央図書館	医学分館	筑紫分館	六本松分館	合 計
入館者数 (学外者：内数)	404,241 (44,268)	165,314 (9,418)	24,549 (246)	249,067 (4,026)	843,171 (57,958)
館外貸出冊数	65,931	28,865	1,745	38,370	134,911
内訳 { 教職員	5,715	7,285	180	12,028	25,208
学生・院生等	59,985	21,266	1,565	26,342	109,158
学外者	231	314	0	0	545
レファレンス件数	5,732	13,981	1,041	9,171	29,925
内訳 { 教職員	904	8,948	531	917	11,300
学生・院生等	3,099	4,474	510	8,021	16,104
学外者	1,727	559	0	233	2,519
内訳 { 所在調査	2,411	7,573	625	4,472	15,081
事項調査	775	4,730	104	47	5,656
利用指導・その他	2,456	1,678	312	4,652	9,098
オンライン情報検索サービス件数	45	138	—	—	183
内訳 { DiALOG	4	10	—	—	14
JOIS	39	125	—	—	164
NACSIS-IR	2	3	—	—	5
CD-ROM サーバ情報検索件数	81,763	23,966	—	—	105,729
文献複写サービス件数	173,259	127,731	—	10,108	311,098
学内者の複写件数	152,185	85,384	—	—	237,569
学外からの受付件数	16,131	36,954	—	—	53,085
{ 国内	16,131	36,876	—	—	53,007
{ 国外	0	78	—	—	78
学外への依頼件数	4,943	5,393	—	932	11,268
{ 国内	4,866	5,333	—	922	11,121
{ 国外	77	60	—	10	147
図書・雑誌の相互貸借件数	3,320	112	—	1,315	4,747
他機関への貸出件数	2,344	55	—	686	3,085
他機関からの借用件数	976	57	—	629	1,662
{ 国内	976	57	—	628	1,661
{ 国外	0	0	—	1	1

平成13年度データベース利用統計

データベース名		データベース名	
WEB of Science	382,675	NSCDNet	23,966
Ovid Net 2	81,763	内訳 { CACD	3,210
{ Current Contents	25,091	医学中央雑誌	12,560
Eric	284	Journal Citation Reports	4,118
Medline	51,711	JICST化学技術用語シソーラス	315
PsycInfo	3,511	雑誌記事索引	3,763
CancerLit	340	SciFinder Scholar	8,618
EBMR	555		
EconLit	271	合 計	554,819

Ovid Net 2 の EconLit は平成13年9月から導入

SciFinder Scholar は平成13年11月から導入

NSCDNet の雑誌記事索引は7月末で提供を終了

附属図書館商議委員名簿

平成14年4月1日現在

委員	有川節夫	(システム情報科学研究所 教授)	図書館長)
委員長	藤田昌也	(経済学研究所 教授)	副館長)
〃	野瀬善明	(医学研究所 教授)	医学分館長)
〃	根本紀夫	(総合理工学研究所 教授)	筑紫分館長)
〃	吉田昌彦	(比較社会文化研究所 教授)	六本松分館長)
〃	松尾文碩	(システム情報科学研究所 教授)	情報基盤センター長)
〃	柳原正治	(法学研究所 教授)	留学生センター長)
〃	安藤保	(人文科学研究所 教授)	
〃	上野洋三	(〃 〃)	
〃	合山 究	(比較社会文化研究所 教授)	
〃	菅 英輝	(〃 〃)	
〃	田 眞誠一	(人間環境学研究所 教授)	
〃	土戸敏彦	(〃 〃)	
〃	野田 進	(法学研究所 教授)	
〃	石田正治	(〃 〃)	
〃	堀江康熙	(経済学研究所 教授)	
〃	関 源太郎	(〃 〃)	
〃	小谷耕二	(言語文化研究所 教授)	
〃	高藤冬武	(〃 〃)	
〃	前田 悠	(理学研究所 教授)	
〃	小田垣 孝	(〃 〃)	
〃	松井 卓	(数理学研究所 教授)	
〃	吉川 敦	(〃 〃)	
〃	高橋成輔	(医学研究所 教授)	
〃	小坂俊夫	(〃 〃)	
〃	花澤重正	(歯学研究所 教授)	
〃	前田勝正	(〃 〃)	
〃	美根和典	(薬学研究所 教授)	
〃	前田 稔	(〃 〃)	
〃	桜井 晃	(工学研究所 教授)	
〃	中武 一明	(〃 〃)	
〃	吉田 啓二	(システム情報科学研究所 教授)	
〃	福田 晃	(〃 〃)	
〃	太田正之輔	(総合理工学研究所 教授)	
〃	清水昭比古	(〃 〃)	
〃	横川 洋	(農学研究所 教授)	
〃	久原 哲	(〃 〃)	
〃	中山 敬一	(生体防御医学研究所 教授)	
〃	佐藤浩之助	(応用力学研究所 教授)	
〃	金政修司	(機能物質科学研究所 教授)	
〃	大柿哲朗	(健康科学センター 教授)	
〃	石井 保廣	(事務部長)	

● 人 事 異 動 ●

(平成14年2月から平成14年6月)

(中央図書館)

3. 31 佐田 忠鴻 (事務部長) 定年退職
 // 山口 徹郎 (データベース掛事務補佐員) 退職
 4. 1 有川 節夫 副学長(附属図書館長)
 // 藤田 昌也 副館長(大学院経済学研究院教授)
 // 石井 保廣 事務部長(愛媛大学附属図書館事務部長から)
 // 高塩 勝也 (情報管理課長) 熊本大学附属図書館事務部長へ
 // 濱崎 修一 情報管理課長(熊本大学附属図書館情報サービス課長から)
 // 田中 榮博 (情報サービス課長) 金沢大学経理部情報処理課長へ
 // 藤井 明 情報サービス課長(大阪大学附属図書館医学情報課長から)
 // 山本 善之 (会計掛) 医学部会計掛へ
 // 田中有為子 会計掛主任(文学部会計掛主任から)
 // 内田智恵子 (図書情報第一掛) 東京大学附属図書館へ
 // 阿部 千宏 図書情報第一掛事務補佐員(情報サービス課相互利用掛から)
 // 青柳 良輔 図書情報第二掛(再任用)
 // 上田 大輔 雑誌情報掛(生体防御医学研究所管理掛から)
 // 相部久美子 情報サービス第一掛事務補佐員(情報管理課図書情報第一掛から)
 // 塚本 佳奈 情報サービス第二掛(採用)
 // 柴田とみ子 相互利用掛事務補佐員(情報サービス第一掛から)
 // 古賀由紀子 データベース掛(文部科学省大臣官房政策課から)
 // 児玉 佳子 データベース掛事務補佐員(採用)
 // 益森 治巳 (電子情報掛長) 琉球大学附属図書館情報管理課長へ
 // 服部 綾乃 電子情報掛(情報管理課図書情報第二掛から)
 5. 1 樋口 伸子 データベース掛事務補佐員(採用)
 6. 1 原田 方子 データベース掛事務補佐員(採用)
 6. 30 神田 裕子 (庶務掛事務補佐員) 辞職

(医学分館)

2. 1 鳥居 愛 受入目録掛(採用)
 2. 20 江尻 純子 (相互利用掛事務補佐員) 辞職
 3. 1 田野 信子 相互利用掛事務補佐員(採用)
 3. 31 樋口 伸子 (参考調査掛) 定年退職
 4. 1 野瀬 善明 医学分館長(大学院医学研究院教授)
 // 三浦 誠 受入目録掛長(筑紫分館図書掛長から)
 // 羽賀真記子 閲覧掛(採用)
 // 井ノ上俊哉 参考調査掛長(鹿児島大学附属図書館情報サービス課桜ヶ丘分館情報サービス係長から)
 // 澤井 寛 参考調査掛(閲覧掛から)

(筑紫分館)

4. 1 尾上 五男 図書掛長(医学分館受入目録掛長から)

(六本松分館)

4. 1 吉田 昌彦 六本松分館長(大学院比較社会文化研究院教授)

4. 1 篠田 繁寿 (受入掛) 情報基盤センター電子情報サービス掛へ
 // 星子 奈美 受入掛 (採用)
 // 吉松 伸恵 目録掛 (石炭研究資料センターから)
 // 渡邊由紀子 閲覧掛長 (宮崎医科大学教務部図書課情報サービス係長から)
 (教育学部等)
3. 31 青柳 良輔 (図書掛長) 定年退職
4. 1 中野由紀夫 図書掛長 (医学分館参考調査掛長から)
 (法学部)
2. 1 伊勢脇純子 図書掛 (医学分館受入目録掛から)
 (経済学部)
3. 31 阿部 蒔子 (図書掛長) 定年退職
4. 1 松田 尚代 図書掛長 (六本松分館閲覧掛長から)
 // 上田はるみ 図書掛 (六本松分館目録掛から)
 // 沖 政広 (図書掛) 宮崎医科大学教務部図書課情報サービス係長へ
 // 青木 良秀 図書掛 (工学部等総務課図書掛から)
4. 24 堀 優子 (図書掛) 育児休業
 // 山本 綾 図書掛 (臨時的任用)
 (工学部等)
4. 1 大平 久司 図書掛 (附属図書館情報管理課雑誌情報掛から)
 (生体防御医学研究所)
4. 1 山口 良子 管理掛 (附属図書館情報システム課データベース掛から)
 (石炭研究資料センター)
4. 1 小林 伸子 (経済学部図書掛から)

● 図書館日誌 ●

(平成14年2月～平成14年6月)

2. 4 電子ジャーナル説明会 (東京大学)
2. 5 総務省九州管区行政評価局の行政監察 (中央図書館)
2. 6 総務省九州管区行政評価局の行政監察 (六本松分館)
 // 平成13年度目録システム担当者連絡会議 (国立情報学研究所)
2. 8 電子ジャーナル説明会 (中央図書館)
2. 15 理系図書館ヒアリング (情報基盤センター)
 // 平成13年度第3回福岡地区研究会 (福岡工業大学)
2. 19 平成13年度大学図書館等情報化支援会議 (国立情報学研究所)
 // 高麗大学校学生一行 (11名) 来館
2. 22 慶北大学校中央図書館訪問 (有川館長、今西、松原教授、栗山補佐) (～23日)
2. 28 NACSIS-CAT/ILL 講習会担当者会議 (国立情報学研究所)
3. 1 慶北大学校中央図書館電算管理チーム、分類目録チーム、古書担当 (3名) 来館
3. 4 館長会議、附属図書館商議委員会 (中央図書館)
3. 5 NACSIS-SL/ILL 評価会議 (国立情報学研究所)
3. 7 第4回ラテン語古刊本書誌作成研修会 (中央図書館)
3. 11 外国雑誌センター館会議 (東京大学)

- 3. 14 第4回法人格取得問題に関する附属図書館懇談会、電子ジャーナル・タスクフォース会議（東京大学）
- 3. 20 講演会「これからの大学図書館と情報リテラシー教育：琉球大学附属図書館の実践をととして」（琉球大、上原恵美氏）（中央図書館）
 - // 全学図書系掛長会議（中央図書館）
- 3. 27 福岡市総合図書館運営審議会
- 3. 29 ラテン語研修会（中央図書館）
- 4. 3 Dan Vu Binh ハノイ農業大学学長来館
- 4. 16 電子ジャーナル・タスクフォース会議（東京大学）
- 4. 18 第32回九州地区国立大学図書館協議会（大分大学）
- 4. 19 平成14年度第53回九州地区大学図書館協議会総会（大分大学）
- 4. 22 情報検索講習会（文献検索の基礎）開始（六本松地区）（～26日）
- 5. 9 研究開発室会議、館長会議、附属図書館商議委員会（中央図書館）
 - // 附属図書館貴重文物展観「ヨーロッパ製古地図から見たアジア・日本・九州」（中央図書館）（～15日）
- 5. 10 附属図書館公開講演会「ヨーロッパ製古地図から見た日本とその周辺」小野菊雄名誉教授（中央図書館）
- 5. 13 全学図書系掛長会議（中央図書館）
- 5. 17 講演会（資料保存研修会）本部 徹講師（中央図書館）
- 5. 20 情報検索講習会（データベース編）開始（中央図書館、医学分館）（～6月5日）
- 5. 21 新図書館検討WG（中央図書館）
 - // 国立大学附属図書館事務部課長会議（国立情報学研究所）
- 5. 22 今後の電子図書館のあり方（国立情報学研究所）
 - // 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会（東京大学）
 - // 平成13年度著作権特別委員会（東京大学）
 - // 国立大学図書館協議会常務理事会（東京大学）
- 5. 23 平成13年度図書館高度情報化特別委員会（第2回）（東京大学）
 - // 国立大学図書館協議会理事会（東京大学）
 - // 電子ジャーナル・タスクフォース会議（東京大学）
 - // 資料保存第10回研修会（中央図書館）
- 5. 24 センター地区基本設計合同検討チーム会議（事務局）
 - // 九州芸術工科大学図書館との統合打合せ（芸工大）
 - // 平成14年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会（筑紫女学園大学）
- 6. 7 統合連絡会（中央図書館）
- 6. 10 「図書館情報」編集委員会（中央図書館）
- 6. 11 新図書館運用検討サブWG（中央図書館）
- 6. 12 情報リテラシーWG（中央図書館）
- 6. 14 全学閲覧業務担当会議（中央図書館）
- 6. 20 第2回センター地区基本設計合同検討会議（事務局）
- 6. 26 第1回ラテン語研修会（中央図書館）
 - // 第49回国立大学図書館協議会総会（鳥取大学）（～27日）
- 6. 27 資料保存研修会（中央図書館）
- 6. 28 ホームページ編集委員会（中央図書館）
 - // 史・資料研究会（中央図書館）

自著紹介

武 維平 (大学教育研究センター助教授)

「郭沫若留日十年:1914-1924」

武 維平著
重慶出版社 2001

[中央図書館 920.278/Ka 28]

郭沫若は日本と深い関わりを持つ現代中国文学の巨人であった。大正3年から12年までの間医学を学ぶために日本に留学していたが、途中文学に転身したのである。この10年では、彼が一介の医学生から文学者への道を歩み、日本という異文化の中で同時代中国の新詩の流れを変えてしまうほどの文学者に成長した。では、もともと医学生の彼は何故詩人になったのか、彼は日本でどんな思想に接し、精神的にどんな滋養を吸収していたのか。当時の文学界を震撼させた彼の処女詩集『女神』を育んだ環境と詩人の精神風土は未だに解明されていない。

このような問題意識で、「異文化の狭間にいる郭沫若—日本留学の時代」を論題に、留学事情および創作環境の事実検証を主軸に、彼が日本で書いた文学作品を論じ、そして彼の日本留学事情および創作環境の事実検証を主軸に、彼が日本で書いた文学作品を論じ、そして彼の日本留学の足跡を追いながら、政治、文学思想の受容関係を探り、現代中国の代表的な文学大家にまで成長した過程と、若き詩人郭沫若のより真実な人間像を突き止めることを目指して本書を書いたのである。

本書は著者による中国語翻訳版である。

清水 展 (比較社会文化研究院教授)

「The Orphans of Pinatubo :
the Syta Struggle for Existence」

Hiromu Shimizu
Solidaridad Publishing House 2001

[六本松分館 369.31/Sh 49]

1991年6月、フィリピン西部ルソンのピナトゥボ火山が大爆発を起こしました。同じ頃に噴火した雲仙普賢岳の600倍、20世紀最大の規模でした。そのため、山麓一帯で狩猟と焼畑農耕を営みながらくらしていた、3万人ほどのグリート系先住民アエタは、故郷を追われ、再定住地で新たな生活を始めることを余儀なくされました。本書は、噴火の直後から6年間にわたって、現地を訪れ、100人を超える友人知人たちにインタビューした記録です。彼／彼女たちの被災苦難の体験や、生活再建の苦闘、そのなかでの民族的・文化的な自覚の強化などについて、彼ら自身の語り30編と私の解説を収めています。

彼／彼女ら個々人の経験が、集合的な記憶の銀行としてアエタ・コミュニティで共有されること、そして発するメッセージが、アエタ以外の人々の耳に届き、新たな対応を生みだすことを願って出版しました。25年前のフィールドワークで2年間お世話になったことへの、ささやかな恩返しとなればうれしいです。

村上敬宜 (工学研究院教授)

「金属疲労:微小欠陥と介在物の影響」

村上敬宜著
養賢堂 1993

[中央図書館 501.41/Mu43/1 B]

人間の日常感覚が学問の進歩を遅らせる典型的な

例として「金属疲労」をあげることができる。スタンダーが「一旅行者の追憶」の中で金属疲労らしきことに目を留めたのは1830年代である。ドイツの鉄道技師 Wöhler が世界で始めて計画的に金属疲労の研究を始めたのは1850年代である。皮肉なことにそのドイツで1998年に新幹線の車輪の疲労破壊事故で102名の死者が出た。人間は機械や乗物が無事に運転されている間はそれらが永遠に無事に運転されると思ひ込む習性を持っている。しかし、その期待には科学的根拠はない。金属疲労は静かに進行し、起こるべくして起こる。全ての材料、機械には疲労破壊の発端となる目に見えない微小な欠陥が存在する。欠陥の寸法も場所もまちまちである。したがって、疲労強度の予測はきわめて困難である。本書は微小欠陥から亀裂が発生し、破壊に至る現象に焦点を当て、「金属疲労の真髄を理解すること」と「実際問題の解決にどのように対処すべきか」を書いたものである。

村上敬宜 (工学研究院教授)

「Metal Fatigue : Effects of Small Defects and Nonmetallic Inclusions」

Yukitaka Murakami
Elsevier 2002

[中央図書館 501.41/Mu43]

本書は日本語版「金属疲労：微小欠陥と介在物の影響」(養賢堂、1993年)に新たに2章を追加し、さらに付録の統計的考察の部分を補充して、英文として出版したものである。英文として出版した理由は、日本語版をヨーロッパの研究者が購入し、図表や式を頼りに読んだり、中国人の研究者に訳させている、というはなしを以前から聞いていたからである。新たに追加した15章と16章のうち15章は特に最近の難問である「超長寿命疲労破壊現象」を扱っている。以前は「10の7乗回まで試験して、破壊しなければ永久に破壊しない」といわれていたことを見直さなければならない実験データが相次いで報告されており、この現象は研究者、設計者に警告を与え

ている。英訳はつらい仕事であるが「やらねばならぬ」と思ってやった。

本文の英訳は英国の友人、Dr. Les Pook に、はしがきの訳は留学生センターの A. Cobbing 先生に助けてもらった。

Wolfgang Michel (言語文化研究院・教授)

「Heutiges Japan / Engelbert Kaempfer」

Hrerausgegeben von
Wolfgang Michel und Barend J. Terwiel
Band I/1 und I/2.

Iudicium-Berlag 2001

[六本松分館 210.5/Ka15]

ドイツ人エンゲルベルト・ケンペル(1651-1716)はロシア、ペルシャ、インド、シャム、日本などに関して膨大な資料を残した最初のヨーロッパ人研究旅行家の一人である。様々な分野でケンペル研究が盛んになっているのを受け、大英図書館所蔵のケンペル遺稿を刊行する国際的プロジェクトが10年前に発足し、昨年11月に第一弾として有名な『日本誌』の原典批判版が出版された。上巻は原稿の本文、図版資料と、いわゆる原典批判の注釈となっており、下巻は内容に関する脚注のほか、資料の特徴、ケンペルの日本研究の背景、方法などの詳細な分析を載せている。分析にあたっては驚きの連続だった。ケンペル以外に3人の筆跡が確認され、ドイツ語の原文は18世紀に刊行された英語、フランス語版などに比べはるかに不統一で未完成だった。我々は過去を再構築する際、その土台となる資料に依存し、操作されていることを改めて実感させられた。





本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

中央図書館

有川節夫(附属図書館長・システム情報研究院教授)

「Progress in discovery science : final report of the Japanese discovery science project」

Setsuo Arikawa, Ayumu Shinohara eds.

Springer 2002

[中央図書館 007.13/A71]

武 継平(大学教育研究センター助教授)

「郭沫若一留日十年」武 継平著

重慶出版社 2001

[中央図書館 920.278/Ka28]

村上敬宜(工学研究院・教授)

「金属疲労：微小欠陥と介在物の影響」

村上敬宜著

養賢堂 1993

[中央図書館 563.6/Mu43/1B]

村上敬宜(工学研究院教授)

「Metal fatigue : effects of small defects and non-metallic inclusions」

Yukitaka Murakami

Elsevier 2002

[中央図書館 563.6/Mu43]

六本松分館

清水 展(大学院比較社会文化研究院教授)

「The Orphans of Pinatubo : the Ayta struggle for existence」

Hiromu Shimizu

Solidaridad Publishing House 2001

[六本松分館 369.31/Sh49]

Wolfgang Michel(大学院言語文化研究院教授)

「Heutiges Japan/Engelbert Kaempfer」

Herausgegeben von

Wolfgang Michel und Barend J. Terwiel

Band I/1 und I/2.

Iudicium—Berlag 2001

[六本松分館 210.5/Ka15]

嶋田洋一郎(大学院比較社会文化研究院助教授)

「ヘルダー旅日記」嶋田洋一郎著

九州大学出版会 2002

[六本松分館 945.6/H53]

表紙について

源氏物語歌絵は附属図書館ホームページの「九州大学附属図書館貴重資料画像データベース」から見るができます。

<http://herakles.lib.kyushu-u.ac.jp/nara/genji/txt/f001.htm>

情報検索講習会

定期開催のお知らせ

附属図書館では昨年度から九州大学学内者向けの情報検索講習会を開催しております。

今年度は新入生対象のガイダンスに始まり、4月20日～26日には六本松キャンパスで情報検索講習会（文献検索の基礎）、5月20日～6月5日には箱崎キャンパスで「情報検索講習会（データベース編）」を開催しました。

7月10日からは毎週水曜日に、情報検索講習会（文献の探し方）の定期開催を開始しています。「OPACの使い方」、「図書の探し方」、「雑誌の探し方（文系）」、「雑誌の探し方（理系）」の順で毎月行っていきます。

開催場所：中央図書館（箱崎キャンパス）3階

第2情報サロン

申込先：＜窓口＞中央図書館カウンター

中央図書館参考調査掛

六本松分館カウンター

医学分館参考調査掛

＜電話＞092-642-2336

＜E-mail＞ref1@lib.kyushu-u.ac.jp

※E-mailで申し込まれる方は氏名・所属・受講希望日時（内容）・連絡先を明記してください。

なお、各回の定員は15名までとさせていただきます。

今後の開催日

OPACの使い方	8月7日（水）	9月11日（水）
図書の探し方	8月21日（水）	9月18日（水）
雑誌の探し方（文系）	8月28日（水）	9月25日（水）
雑誌の探し方（理系）	9月4日（水）	10月2日（水）

※時間はいずれも15時00分から16時00分までです。

附属図書館のホームページに情報検索講習会案内がありますのでご覧下さい。

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/d-lib/school/H14search/index.html>

